



総合支援学校職員の他に、市内小学校通級指導教室担当者、市の子ども若者育成支援センター（臨床心理士）、子育て支援課・保健課（保健師）、南魚沼福祉会相談支援センターみなみうおぬまの職員等で、特別な教育的支援についての専門的知識や経験を有する者あるいは現在当該業務に従事している者を地域支援スタッフとした。スタッフは総勢40人に達するが、中核的スタッフは総合支援学校職員である。

特別支援教育推進室長は総合支援学校スタッフ（教諭）をあて、総合支援学校長及び市教育委員会学校教育課特別支援教育担当指導主事の指導に基づき、事務局として連絡調整や実務を担当する。なお、この特別支援教育推進室の開設運営に伴う予算措置や人的な配置はなされていない。

### ③地域支援活動の概要

特別支援教育推進室の活動は2つに大別される。一つは相談支援活動であり、もう一つは「特別支援教育基礎研修講座」の実施である。相談支援活動は各校園の依頼に応じてスタッフ1人あるいは複数人を派遣し、当該校園における課題解決に向けた相談や助言、理解啓発等の活動を行う。相談に類型・種類は定めず、軽微な相談、諸検査の実施、事例検討会（ケース会議）、定期的な訪問、研修会の開催等、各校園のニーズ（要請）に応じて柔軟に対応することとした。

「特別支援教育基礎研修講座」は市学習指導センターと連携し、特別支援教育に関する基礎的・基本的な知識技能を体系的に習得できるよう、年間を通じて計画的に研修計画を組んだ。平成27年度は11講座を開講し、実施した。

## 3 特別支援教育推進室の活動状況（平成27年9月30日現在）

### 1）相談支援活動

特別支援教育推進室の相談支援活動は、今年5月から本格的に対応を始めた。現時点（平成27年9月30日）までに163件の相談支援の依頼があり、そのすべてに対応している。

163件のうち、巡回相談（学校訪問）が大半の135件、来校相談7件、電話相談6件、その他（自立支援協議会等への出席）15件となっている。表3にその内訳を示した。依頼機関別に見ると、小中学校が81件、次いで幼保育所が55件で、全体の約80%を占める。高等学校は極端に少ないが、これには特別支援教育推進室の開設や地域支援活動を行っていることが十分知られていないことも原因の一つと考えられる。それにしても、高等学校に発達障害等の生徒が在籍していないということではないので、いかに高等学校に活用を促していくかが今後の課題である。

表3－相談支援の内訳（平成27年9月30日現在）

相談支援内容／依頼機関	幼保育所	小中学校	高 校	その他	<計>
①個別の指導計画作成等	1	1			2
②教材教具の貸出		2			2
③特別支援教育研修	2	6			8
④学級担任の相談	16	10			26
⑤保護者の相談	16	18			34
⑥ケース会議	15	19	1		35
⑦心理発達検査の実施等	2	17			19
⑧授業参観	2	2			4
⑨その他（自立支援協議会等）				15	15
⑩来校相談	1	6			7
・就学/教育相談	(1)	(3)			(4)
・授業参観/授業体験		(3)			(3)
<計>	55	81	1	26	163

<注>⑩は依頼件数の多い上位5項目、( )の数字は来校相談の内訳

また、相談支援の内容別で見ると、ケース会議35件、保護者の相談（心理検査結果の説明、子どもの養育相談等）34件、学級担任の相談26件、心理検査の実施19件、特別支援教育に関する校内研修への講師派遣19件等となっている。表2に示した総合支援学校に対する地域支援ニーズと実際の相談支援内容が密接にリンクしていることが分かる。

### 2）「特別支援教育基礎研修講座」の実施

年間11回実施する「特別支援教育基礎研修講座」は、障害のある子どもの教育や療育に携わる南魚沼地域の教職員の人材育成、専門性の向上を目指している。特別支援教育に関する基本的な理解や指導支援を体系的に研修できるように、以下①～⑫に示すような内容や期日（時間）で実施した（実施予定も含む）。

①障害の理解と支援…主に知的障害や発達障害についての概念的な理解を図り、支援の在り方について学ぶ。上越教育大学附属小学校の中島秀晴副校長（元義務教育課特別支援教育推進室長）を講師に、6月4日（木）午後3時半から5時に実施した。

②障害のある子どもの指導…障害に対応した教育課程の編成の基本的な考え方、教育的な対応の基本を学ぶ。上越教育大学の齋藤一雄教授を講師に、7月10日（金）午後3時半から5時に実施した。

③事例検討会…知的障害を伴う自閉症・発達障害等様々な困難がある児童生徒の支援や指導について、指導者の指導助言を受けながら、グループで検討する。県立吉田病院の新田初美医師を講師に、7月28日（火）午後1時半から4時半に実施した。

④検査法Ⅰ／⑤検査法Ⅱ（WISC-Ⅳ）…講義と演習を通じて、WISC-Ⅳの特徴・内容・実施・採点・解釈の基本を学び、実際に検査を実施できるスキルを学ぶ。上越教育大学小林優子講師を招き、7月30日（木）午前9時から午後4時半に実施した。

⑥相談の進め方…講義と演習を通じて、保護者や教師の主訴の受け止めやその後の対応の仕方を学ぶ。上越教育大学の稲垣応顕准教授を講師に招き、8月6日（木）午前9時半から11時半に実施した。

⑦検査法Ⅱ（DN-CAS）…DN-CASの認知評価システムの基本を知る。またDN-CASが発達障害のある子どもの認知の偏りを、どのように評価するのか、結果を日々の指導支援にどのように生かすかについて学ぶ。筑波大学の青木真純助教を講師に招き、8月24日（月）午前9時半から11時半に実施した。

⑧個別の指導計画の作成と活用…個別の指導計画について、子どもの実態把握、指導目標の設定、計画の立案、評価の仕方等について学ぶ。上越教育大学の笠原芳隆准教授を講師に招き、9月15日（火）午後3時半から5時に実施した。

⑨ユニバーサルデザイン…ユニバーサルデザインの基本的な考え方、UDL（学びのユニバーサルデザイン）の原則、具体的な指導、支援方法を講義と演習を通して学ぶ。総合支援学校（特別支援教育推進室長）の田村靖教諭を講師に、10月16日（金）午後3時半から5時に実施した。

⑩授業参観と協議…市内小中学校、特別支援学校の授業参観、協議を通し、授業力の向上を図る。南魚沼市教育委員会の北島豊指導主事を講師に、11月16日（月）に実施した。

⑪保護者への支援と対応…保護者への支援と対応について、具体的な事例をもとに学び、適切な保護者理解の基礎を身に付け

る。新潟いなほの会（発達障害児者親の会）の沼田夏子元会長を講師に招き、12月15日（火）午後3時半から5時に実施する予定である。

①～⑩はすでに実施済である。障害のある子どもの指導支援にあたる受講（想定）者が、できるだけ出席しやすいよう、夏期休業中と放課後の時間帯に研修講座を設定した。毎回の研修講座には約70人（校園教職員や行政機関職員等が約30人、特別支援学校教職員約40人）が受講している。開催期日を配慮したつもりであったが、市内校園等の行事と重なることが思いの外多かったため、次年度以降はその点も十分考慮して研修講座を設定する必要がある。

#### 4 特別支援教育推進室の今後の展望

##### 1) 特別支援教育推進室の地域の受け止め

校内に特別支援教育推進室を立ち上げて、活動を始めて、半年余りが過ぎた。この間、校園等から様々な相談支援の要請があり、対応した件数は163件にのぼり、月を追って増加する傾向にある。相談支援も一度要請があつて対応すると、特別支援教育推進室スタッフと要請先との人的なネットワークができることもあり、同一機関や同一依頼者から頻繁に要請があり、複数回の相談支援となる場合が多い。即時的・組織的に、しかも気楽に相談支援に乗ってもらえると言うことで、特別支援教育推進室の活動評価や評判は上々である。

また、特別支援教育基礎研修講座に関しても、「南魚沼市にいながらにして、専門的な特別支援教育に関する講義が聴けて、明日の指導に大いに役立つ」といった小学校受講者の声に代表されるように、特別支援学校一校が単独で実施する研修講座としては素晴らしいし、参考となり、明日からの障害のある子どもの指導支援や療育に生かせるといった、受講者からの感想が多数寄せられている。

このように、特別支援教育推進室の開設は地域支援や地域の特別支援教育を担う人材育成や専門性向上に大きな役割を果たしていると、手応えを実感している。

ただし、現状では、特別支援教育推進室を運営するための人的な配置や予算的な措置が何もない。今後、今以上に相談支援ニーズや研修ニーズが増加していくことが見込まれるので、それらに適時的に応えていくためには、やはり人的配置や予算措置が不可欠となってくる。しかしながら、地方自治体が財政難にあえぐ中であつては、それも難しいことは理解している。

##### 2) 特別支援教育推進室の今後の在り方

上述した課題を解決し、地域の特別支援教育の一層の促進や充実を図るためには、以下のような方策が考えられる。現在、南魚沼市には、主に小・中学校教育の課題を解決するための研修等を担う学習指導センターが開設されている。また、児童生徒や成人した大人の不登校・引きこもりを含む、青少年問題を解決するために、子ども若者育成支援センターが設置されている。そして、障害のある子どもに係る相談支援や障害のある子どもの指導支援を担当する教職員の研修を担う、総合支援学校の特別支援教育推進室が今年度開設された。この市内にある3機関を整理統合し、南魚沼市立総合教育相談センター（仮称）の新設を検討してはどうか。これら3機関を整理統合することにより、南魚沼市という地域の特性に対応した、乳幼児期から

成人期までを見越した、障害の有無にかかわらず一貫した教育支援体制の構築が可能になるのではないかと考えるからである。さらに、人的な配置や財政負担も、現状とほとんど変わりなく済むと考えられるからである。

#### <文献>

文部科学省初等中等教育局特別支援教育課（2015）平成26年度特別支援教育資料。

南魚沼市教育委員会（2014／2015）平成25度／平成26年度南魚沼市学校教育要覧。

青木仁（2004）小・中学校が特殊教育諸学校に期待する特別支援教育のセンター的役割について。新潟県知的障害養護学校教育研究協議会報，37，4-5

青木仁（2005）県内特殊教育諸学校における地域のセンター的役割に関する調査結果の概要。新潟県知的障害養護学校教育研究協議会報，38，4-5

青木仁（2014）南魚沼市内小・中学校における特別な教育の支援に関するニーズ調査。平成26年度南魚の教育，1-6



## 参考資料—特別支援教育推進室のチラシ（表と裏の2面）

〈表〉 南魚沼市内の幼保、小中学校の先生方 ご利用ください。

## 特別支援教育の力量UP!

## 1 園や学校に出向き、保育や指導にアドバイス

- ・電話一本、無料、面倒な手続きは不要です。
  - ・必要な時に、必要なだけ何回でも、出向きます。
  - ・何でもOK(研修会、ケース会議、諸検査、授業研究、進路相談、就学の相談、保護者対応…)
- ※ スタッフは、特別支援学校や通級指導教室の教員、経験のある保育士、相談支援センター相談員、保健師、作業療法士、臨床心理士、歯科衛生士、栄養士など、専門性のあるメンバーです。ケースの内容に応じて派遣するスタッフを選びます。時にはチームで対応します。

## 2 年11回「特別支援教育基礎研修」を実施

- ・大学の教員等、高度な専門性がある指導者による講座です。
  - ・旅費や時間をかけて遠くまで研修に行く必要はありません。
- ※ 南魚沼市学習指導センターと共催です。詳しくは学習指導センター「平成27年度研修講座一覧」をご覧ください。参加申込み先は学習指導センターになります。

輝く瞳とあふれる笑顔のために

南魚沼市立総合支援学校

## 特別支援教育推進室

※ 南魚沼市UD支援事業と学校地域支援を一元化しました。

025-773-3776 (直通)

〒949-6615 南魚沼市西泉田 47-2 南魚沼市立総合支援学校

〈裏〉

## 推進室委嘱スタッフ一覧(順不同)

田村 靖	総合支援学校 教諭(室長)	星野康子	総合支援学校 教諭	松本 純一	総合支援学校 教諭
岡田 晃	総合支援学校 教諭	庭野美奈子	総合支援学校 教諭	小野塚きよみ	総合支援学校 教諭
馬場 義典	総合支援学校 教諭	森田 隆行	総合支援学校 教頭	北島 豊	学校教育課 指導主事
鈴木美智子	総合支援学校 作業療法士	保岡りょう子	北沢小学校 教諭	日里由紀子	城内小学校 教諭
堀口生雄	施設小学校 教諭	木村直子	保健課 保健師	川瀬美智子	保健課 保健師
山崎直子	保健課 保健師	川瀬百恵	保健課 保健師	青野 睦子	保健課 栄養士
山崎早苗	保健課 保健師	野口牧子	保健課 歯科衛生士	梅澤百合子	保健課 保健師
塩川花恵	保健課 保健師	阿部コリエ	保健課 保健師	関 サチイ	保健課 保健師
櫻井可奈子	保健課 保健師	高井 理沙	保健課 保健師	関口 晃平	保健課 保健師
児玉雄太郎	子育て支援課 主事	片桐 裕子	赤石保育園 園長	井口 清美	数神保育園 副園長
石川よし江	下長崎保育園 園長	佐藤 千古	大崎保育園 園長	藤 節 仁 美	上原保育園 副園長
今坂 希	あおば保育園 保育士	太田美奈子	大木六保保育園 園長	南雲 睦子	舞子保育園 園長
中嶋 桂	三川保育園 副園長	上村登美江	五日町保育園 副園長	林 祐 美子	四十日保育園 副園長
小倉 久子	宮保保育園 園長	田 鶴 綾子	西五十沢保育園 園長	白井ひとみ	八幡保育園 副園長
上村 順子	上長崎保育園 副園長	林 フ サ子	塩沢保育園 園長	青木 澄子	中保保育園 園長
中澤ケン子	石打保育園 副園長	上村 千 景	上間保育園 保育士	上村 智子	子育て支援センター長
我田 美沙	子育て支援センター 保育士	定 岡 聖 子	ども、若者育成支援センター 臨床心理士		
江部 健幸	南魚沼福祉会相談支援センターみなみうねま センター長				
堀口 賢二	南魚沼福祉会相談支援センターみなみうねま 相談員				
南 明 彦	南魚沼福祉会相談支援センターみなみうねま 相談員				

## 「特別支援教育基礎研修」概要 ※ 申込み、問い合わせ：025-773-3182 (学習指導センター)

テーマ	講 師	期 日	概 要
1 障害の理解と支援(知的障害、発達障害)	上越教育大学付属小学校 副校長 中島秀雄 様 会場：総合支援学校(元県特別支援教育推進室)	6月4日(木) 15:30~17:00	主に知的障害と発達障害についての概念的な理解を図り、支援のあり方について学ぶ。
2 障害のある子どもの指導(教育課程、指導の形態)	上越教育大学 教授 斎藤一雄 様	7月10日(金) 15:30~17:00 会場：総合支援学校	障害に対応した教育課程編成の基本的な考え方、教育的な対応の基本を学ぶ。
3 事例検討会(発達障害)	県立吉田病院子どもの心診療科 エルダグー氏 新田初美 様 南魚沼市教育委員会学校教育課 指導主事 北島 豊 他	7月28日(火) 13:30~16:30 会場：総合支援学校	学習障害、ADHD、高機能自閉症などの様々な困難がある児童生徒の支援、指導について、指導者の助言を受けながら、グループで検討する。
4 検査法I(WISC-IV①)	上越教育大学 講師 小林 優子 様	7月30日(木) ①9:00~12:00 ②13:15~16:30 会場：総合支援学校	講義と演習を通して WISC-IVの特性・内容・実施・採点・解釈の基本を学び、実際に検査を実施できるスキルを身につける。
5 検査法II(WISC-IV②)	上越教育大学 准教授 橋垣広順 様	8月6日(木) 9:30~11:30 会場：総合支援学校	講義と演習を通して、保護者や教師の主訴の受け止めやその後の対応の仕方について学ぶ。
6 相談の進め方	上越教育大学 准教授 笠原芳隆 様	8月6日(木) 9:30~11:30 会場：総合支援学校	講義と演習を通して、保護者や教師の主訴の受け止めやその後の対応の仕方について学ぶ。
7 検査法III(DN-CAS)	筑波大学障害学生支援室 助教 青木真純 様	8月24日(月) 9:30~11:30 会場：総合支援学校	DN-CAS 認知評価システムの基本を知る。また DN-CAS が発達障害のある子どもの認知の偏りなどをどのように評価するのか、結果を日々の支援にどのように生かすのかについて学ぶ。
8 個別の指導計画の作成と活用	上越教育大学 准教授 笠原芳隆 様	9月15日(火) 15:30~17:00 会場：総合支援学校	個別の指導計画について、子どもの実態把握、指導目標の設定、計画の立案、評価の仕方について学ぶ。
9 ユニバーサルデザイン(学習指導、生活環境)	南魚沼市立総合支援学校 教諭 田村 靖 様 (特別支援教育推進室長)	10月16日(金) 15:30~17:00 会場：総合支援学校	ユニバーサルデザインの基本的な考え方、UDLの原則、具体的な指導、支援方法を講義と演習を通して学ぶ。
10 授業参観と協議	南魚沼市教育委員会学校教育課 指導主事 北島 豊 他	11月中旬予定(会場：市内学校)	市内小中学校、特別支援学校の授業参観、協議を通じ、授業力を高める。
11 保護者への支援と対応	新潟いなほの会(発達障害児親の会) 元会長 沼田夏子 様	12月15日(火) 15:30~17:00 会場：総合支援学校	保護者への支援と対応について、具体的な事例をもとに学び、適切な保護者理解の基礎を身に付ける。